

5月のHUGだより

情報提供者：やましろ小児科 山城武夫

5月のテーマ：発達障害について

発達障害は、脳機能の発達が関係する障害で知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害、協調運動障害、トウレット症候群、吃音などが含まれます。

*知的障害：知的指数（IQ）、日常生活での自立機能・運動機能・探索機能・移動・生活文化・職業の到達水準が総合的に同年齢に比べ低水準です。

*広汎性発達障害（自閉症・アスペルガー症候群）：言葉の発達の遅れ（遅れない場合もある）、コミュニケーションの障害、対人関係・社会性の障害、パターン化した行動、こだわり、興味、関心事のかたよりの、不器用などが見られます。



*注意欠如・多動性障害：不注意（集中できない）、多動・多弁（じっとしてられない）、衝動的に行動する（考えるより先に動く）などが見られます。



*学習障害：読む、書く、計算する等の能力が全体的な知的発達に比べて極端に苦手として現れます。



*協調運動障害：知的発達の遅れはなく、筋肉や神経、視覚、聴覚などの異常も認められませんが不正確であったり、時間がかかったり、いわゆる不器用な状態が見られます。

*トウレット症候群：運動チック、音声チックが1年以上わたって続く重症系のチック障害で本人がそうするつもりがないのに出てしまうのが特徴です。

幼稚園、保育園、小学校で生活して行くためには社会性やコミュニケーションが必要になります。集団の中では様々な問題や困り事に直面します。障害を持つ子どもの理解、サポートがされないと、いじめの対象になったり、不登校や引きこもりなどの二次障害につながる可能性があります。政府広報オンラインの早期の気づきのポイントを紹介します。

*人との関わり方：一人遊びが多い、一方的でやりとりがしにくい、おとなしすぎる、常に受動的、大人や年上の子、あるいは年下の子とは遊べるが、同級生とは遊

